区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和5年2月
会議 区政会議（2月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
1	<p>【小グループの進め方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災や防犯、まちづくりなどのテーマについてまとめて進めると、せっかくいい意見が出て掘り下げる前に次のテーマの意見が出てしまい、どっちつかずで議論が浅くなってしまいうため、最初はそれぞれのテーマごとに深く掘り下げていき、後で全体としての議論ができる時間を設けた方がいいと思う。 ・今の状態だと、あまりにも議論すべき範囲が広過ぎて、意見を述べにくく、大まかな形でしかわからない。 ・区政会議は年に4回だけで、1回あたりの時間も限られている中で、一つだけのテーマを取り上げると、他のテーマはどうするのかという話にもなると思う。また、何かフリーな全然関係ないところにぼんと飛ぶような話もしたいという思いがある。 ・防災についての話のボリュームが大きく、それ以外の話し合いができないので防災だけの部会をつくってはどうかと考える。 	<p>小グループの意見交換会については、運営方針と結びついた意見交換となるよう、令和元年度より運営方針に沿ったグループ編成としております。</p> <p>一方で、進め方については、様々なご意見もありますので、今後、ある程度事前に話し合いたい項目を伺う、1つのテーマあたりの意見交換時間を設定するなど、より活発な意見交換となるよう検討してまいります。</p>

【安全安心まちづくり】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和5年2月
分野 区政会議（2月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
2	<p>【防災訓練について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生、中学生、未就学児は南海トラフ地震に直面する世代であるから、防災についての勉強や訓練を繰り返すべきだし、そのような訓練をすることで戦力になると考えている。そのような機会を区役所においてもたくさんつくっていただきたい。 ・災害時は若い人の力がすごく役立つので、体力のある中学生や高校生を取り込んだ活動ができるような方策を考えてほしい。 ・中学生や高校生に防災訓練をするだけでなく、災害が起きたときはボランティアとして助けてほしいというところまで踏み込んでいただきたい。 ・防災リーダーの養成・スキルアップや小・中学校の防災授業は大切なので進めていただきたい。 	<p>令和4年度に中学校長会の場で、区長から地域と学校が一体となった防災訓練の実施を依頼しました。現在、多くの中学校で地域防災リーダーの皆さんが中心となり、こどもたちに防災の知識や技術を教えてもらっております。中学生には訓練だけでなく、大和川の水深表示の周知や防災マップの配布などによる情報発信を進めていきたいと考えております。</p> <p>また、高等学校、一部の小学校でも防災授業が行われております。長吉小学校では、こどもたちにアルファ米を食べてもらうことで、おいしくないからふりかけがいるという意見もありました。このように実際に食べることによって、わかることもありますので、小学生に対しても防災授業を進めていきたいと考えております。</p>
3	<p>【災害発生時の被害について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和川が決壊することが心配なので、区役所からも周知していただきたい。 ・2月に発生したトルコ・シリア地震の被害状況を見ていると、大阪でもあの規模まではいかないにしても火事などが心配である。そのような細かいところの取組が必要だと考える。 	<p>令和4年度から大和川が氾濫したときの浸水の深さを掲示する作業を進めております。今年度は瓜破地域と長吉地域において、災害時避難所の案内表示板（電信柱）と広報板に浸水深の表示を行い、また回覧を作成して地域の方へ周知しております。次年度以降は、喜連地域、平野地域、加美地域へと順次進めてまいります。</p>
4	<p>【避難所について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災研修会に参加した際、避難所に元気な人が一番先に逃げてきて、いい場所を取ってしまうということを聞いた。 ・地域活動協議会に参加する世帯が年々減少しており、高齢化が進んでいる状態のなか、先日の役員会で、災害が起きたときに地域活動協議会に入っていないからといって避難所に入れないことはないと思うが、炊き出しや救援物資の配布を受けられるのかという意見が出た。また、避難所での救援物資等を配付する順番はどのようにすればいいのかという意見があった。 ・備蓄食料について、避難所に備蓄している数以上の避難者が来た場合、どう配った方がいいのか教えてほしい。 ・帰宅困難者の避難所受け入れについても考えなければならない。 	<p>避難所を開設する際は、入り口の近くにスペースをつくり体の不自由な方専用の避難場所を確保することや、避難所内にシートを敷くことで通路を確保するなど地域での訓練で提案させていただきたいと考えております。</p> <p>備蓄物資については、町会に入っていないからといって配布しないということではなく、避難して来られた全ての方が対象であると考えております。一方で、避難所には300食ほどしか備蓄がないため、自宅が安全であれば自宅で待機してもらおうという在宅避難（分散避難）をお願いしており、1週間分の水と食料を備蓄をしていただきたいと地域に発信しております。</p> <p>また、帰宅困難者につきましては、一時待機ができるのであれば会社で待機してもらおうよう企業をお願いしているところです。</p>

【安全安心まちづくり】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和5年2月

分野 区政会議（2月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
5	<p>【防犯について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近強盗事件が多い。複数人で襲われたら身の守りようがないので警察との取組が必要になってくるのではないかと。 ・青色防犯パトロールでのアナウンスを特殊詐欺用のアナウンスに変えていただきたい。 ・無償貸与となっている自動通話録音機は、何かがあってから役立つものであって未然防止には役立たないとする。 	<p>強盗事件については、警察と連携して、情報が入れば地域に発信していきたいと考えております。</p> <p>自動通話録音機については、会話内容が録音される旨の警告アナウンスが流れることで実際に抑止になっているというのを聞いており、広報ひらの2月号に掲載したことにより、多数申請をいただいております。</p> <p>青色防犯パトロールのアナウンスについて、特殊詐欺のアナウンスが一部入っているところもあると聞いておりますが、早急に全地域アナウンスの変更を行ってまいります。</p>
6	<p>【青少年の見守りについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの遊戯場などを巡回してホームレスの発見や青少年の見守りをするのはどうか。 ・六反地域では、町会で週1回お年寄りに弁当を配ったり、公園清掃をしたりしている。また、町会が自転車でパトロールに回り、スピーカーで感染症やひったくりへの注意喚起をしている。一方で、子どもたちが公園で何か悪いことしていれば声をかけられるが、若い人が外に出ていないのであまり声をかけたりはしていないような状態になっている。 	<p>青少年の見守りについては、青少年の「健全育成」と「非行防止」を推進するため、大阪市長より委嘱を受けた青少年員指導員の方々が中心となって、活動いただいております。主な活動として、毎月の定例日や祭事等のイベント開催時に青少年非行防止のための夜間巡視等を行っており、区役所といたしましても連携して取組を進めております。</p> <p>また、警察においても少年補導員制度があり、補導員が非行少年の早期発見及び補導に関する任務などを行っており、複数の機関で青少年の見守り活動を行っています。</p>
7	<p>【地域イベントへの看護師の配置について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民センターのようなホールで大勢が参加するイベント（防災研修や敬老会など）については、1人でもいいので、看護師の方にいてもらえれば安心だと思う。 	<p>区民まつりにおいては、実行委員会形式での実施であり、平野区医務主幹が実行委員会顧問であることから、感染対策及び緊急事態に備え、従事依頼を行い、待機いただくといった対応をとりました。</p> <p>防災研修や敬老会などの地域が主催するイベント等については、当該地域主催者側にご意見を情報共有してまいります。</p>
8	<p>【二十歳のつどいについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式典会場に警察車両が止まっており、制服警官もいたが、せっかくの式典の日にどうなのか。 	<p>「二十歳のつどい」におきまして、参加者が安心して安全に式典に参加していただけるよう例年平野警察署にもご協力をいただいているところです。トラブルの抑止効果として制服警官を配置いただくとともに、警察車両を活用して「犯罪行為を行わない、巻き込まれない」ための啓発活動を行っていただいております。</p> <p>制服警官や警察車両の配備について、賛否さまざまなお意見があることは承知しておりますが、「二十歳のつどい」の円滑な運営のため取り組んでおりますことにつきまして、ご理解のほどお願いいたします。</p>

【安全安心まちづくり】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和5年2月

分野 区政会議（2月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
9	<p>【未利用地の活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾空港跡地は大阪府や八尾市の管轄であるため、平野区が何か意見を述べることはできないのではないかと。もし平野区として意見を述べられるのであれば、まちづくりを進めるうえでいいチャンスになるのではないかと。 ・八尾空港跡地を開発するのであれば、平野区に人が流れるようにするにはどうしたらいいかを考えてほしい。例えば、南巽から地下鉄を延ばして松原市までつなげたら平野区は非常に活性化するのではないかと考えている。発展していくまちというのは、交通の利便性が増しているところであるため、最初は採算が合わないと言われていたところが、人が集まることで採算が合い、にぎやかなまちになっていくと考える。 ・長原駅前の未利用地には、大型商業施設ができるのか。大型施設よりも子どもたちがのびのびと運動できる施設のほうがいい。また、電子書籍の貸し出しサービスを受けられる図書館があればいいと思う。平野区の子どもたちに貢献できるようなものがあればいいと思う。 	<p>八尾空港跡地は大阪市内に2.1ヘクタールほど土地があります。令和4年9月にマーケットサウンディングの調査結果が公表され、13団体から提案があり、商業施設及び住宅を設けるという提案が多くありました。現在、財務省近畿財務局、大阪市及び八尾市で構成する「八尾空港西側土地検討会議」において検討を進めており、連携を図りながら開発については進めていくということになっております。</p> <p>長原駅前の未利用地においては、駅前にふさわしい「にぎわい・集客拠点」として、地域の魅力向上やにぎわいの創出をめざし、公募型プロポーザルによる民間事業者からの企画提案を受けて活用を図ることとし、昨年9月に実施要領の公表を行い、外部有識者からなる選定会議及び価格提案の審査を経て、本年3月17日に開発事業予定者を決定しました。</p> <p>計画提案の内容は、長原駅に隣接する西側の土地について、地域の核となるにぎわい・集客拠点施設として、2階建、延床面積約12,800㎡（うち店舗面積7,500㎡）の施設にスーパーマーケット、飲食店、クリニック・ファーマシー、各種子ども教室、オンデマンドバス・タクシー乗降場など、地域貢献や地域ニーズに沿った計画となっています。</p> <p>東側の土地は、13階建、戸数322戸のファミリー向けの分譲住宅を中心にして、子育て・若年世代の街への定着により地域を活性化し、にぎわいのある駅前エリアの形成につなげる提案となっています。</p>

委員の意見

<p>【地域のつながりづくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントや見守り活動をするうちに、人と人とのつながりができて、災害が起こったときに顔見知りなので活動もしやすくなる。町会に加入してもらうためには、地域とのつながりをつくることで災害発生時に役立つことや、祭りがあるということなどを都度声かけして、粘り強く増やしていくしかないと思う。 ・昔の賃貸マンションだと管理組合で一括して町会に入っていたが、最近の分譲マンションは町会への加入は戸別であるため、マンションが建つたびバラバラになっていく。一方で、水害時は避難場所としても活用できればと思う。また、避難するときは必ず1回で逃げて、逃げ直すはできないということを町会で啓発している。 ・長原東地域では、先日、地元の中学校でHUG（ハグ）という避難所運営ゲームを、生徒と役員が交わりながら実施した。また、子どもまつりの開催を3月に予定しているが、水消火器や煙テントの体験も取り入れて、高齢者の方と子どもと交われる機会にしようと企画している。
<p>【災害時の自助・共助について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会に入っていない方もかなりいるが、地震が起きた際のことを考えても、町会に入っていたきたい。 ・災害時の自助・共助を推進するためには、普段からの人と人とのつながりが大事だと考える。町会の活動や食事サービス、祭りなどを通じて人と人とのつながりが一番最初に大事なことだと考える。
<p>【避難所について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に行けば助けってもらえるというイメージがあるが、家が住めなくなったときに最低限の生活を何とか維持するための場所なので、絶対快適ではないということを地域で発行してる冊子でも発信している。 ・防災リーダーと各町会の役員のうち何名が災害時に実際に人を助けられるのか。避難所に来てくれる人が助けてくれないと救護班はつukれない。実際に集まった人数で避難所を回していくには町会の下の各班の意識付けが大切だと考える。
<p>【水害マップについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平野区でつくられる水害マップを配るだけでなく、地域防災活動の支援の項目に啓発活動というのをに入れてはどうかと考えている。
<p>【特殊詐欺について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊詐欺について、いろんな事例を何回も繰り返し紹介していくことが非常に大事だと考える。
<p>【公園などの子どもが遊ぶ場所について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加美地域は住居が増えたのに、子どもが遊ぶ場所が少ないので、もっと地域に増やしてほしい。

【地域福祉】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和5年2月
分野 区政会議（2月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
10	<p>【見守り活動について】</p> <p>見守り活動というのは、指定の個人を訪問し、安否確認とともに話し相手をすることはできるのか。</p> <p>認知症の方も見守りの対象となるのか。また、未婚で身寄りがないという高齢者は見守りの対象となるのか。</p>	<p>大阪市が地域の皆さんにご協力をお願いしている「見守り活動」として、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業があり、要介護3以上、障がいの手帳の2級以上、精神保健福祉手帳1級以上、認知症等の方について、安否確認を行う際の個人情報取扱いに関する同意が得られた方に対して、各地域で見守りを実施しています。実際に見守り訪問を行っていただく頻度は各地域によって異なっておりますが、見守り活動を通じて、対象者の方と地域の方とが顔見知りの関係となることは、訪問時のコミュニケーションの一助にもなっており、今後も見守り活動の取組に対して、区役所及び見守り相談室としても協力して進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、対象者以外であっても本人からの申出がある場合は、区社会福祉協議会の見守り相談室が申出人の方に事業趣旨の説明を行い、見守りを実施しています。認知症であるから見守りが必要ということではありませんが、暮らしやすいまちをめざすうえで、地域のつながりづくりは必要不可欠なものであり、ご近所の方で、気になるような方がいらっしゃるのであれば、地域包括支援センターや区保健福祉センターへご相談ください。</p>
11	<p>【認知症の方への対応について】</p> <p>認知症にも怒りっぽいやただ物忘れがひどいなど、症状がいろいろあると思うが、対応する際に気をつけることなどはあるのか、どのように対応すればいいのか教えてほしい。</p>	<p>認知症の症状として、時間や場所・人の見当がつかない、物事を思い出せないなどがあり、認知症がある方への接し方において気をつけることの一例として、伝え方や、感情・自尊心への配慮があります。近くの地域包括支援センターや区保健福祉センター（保健活動担当）等で認知症に関する一般的なご相談が可能です。</p> <p>また、認知症がある方への対応などについて、平野区キャラバン・メイト連絡会では認知症サポーター養成講座を行っており、ひらのオレンジチーム（認知症初期集中支援チーム）においても、地域での研修会などについてご要望に応じさせていただくことがあります。</p>
12	<p>【孤独死について】</p> <p>・市営住宅での孤独死はどれくらい発生しているのか。対応する部局はどこなのか。</p> <p>・孤独死は身近な問題ではあるが、対応する人員には課題があり、解決に向けて地域で何か考えないといけないと思っている。コーディネーターや町会長・連合会長などがどのように協働で動くかなど、手続も見直さないといけないというような問題も出ている。</p>	<p>市営住宅を所管している都市整備局に確認したところ、令和4年4月から令和5年1月末時点の孤独死（単身世帯で、発見された時にご自宅で亡くなっておられた場合）は大阪市で231人であり、平野区では37人です。</p> <p>平野区では、孤立死を防止する仕組みづくりとして、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業があり、区役所及び見守り相談室が区社会福祉協議会と連携していますが、見守り活動は地域の方をお願いしておりますので、引き続き、地域の団体と連携して行く必要があると認識しております。</p>

【地域福祉】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和5年2月
分野 区政会議（2月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
13	<p>【地域への周知について】</p> <p>困った際に相談先などがあることは、平野区のいいところだと思うが、地域の方がまだわかってない、理解していないということが非常に多いと思う。</p>	<p>相談機関や専門機関について、周知方法も含めて検討して行く必要があると認識しております。各地域の方の集まる場などへ出向いてご説明させていただくことも可能ですので、そういう機会もご活用いただければと考えています。</p>
14	<p>【地域行事について】</p> <p>これからもいろいろ行事をやろうと思っているが、区役所からも地域へ介入してどうしたらいいか教えてもらえたらと思う。</p>	<p>また、会議に参加して意見交換することは大切な事だと考えており、引き続き、地域の役員、民生委員、地域福祉活動コーディネーター及び地域包括支援センター、社会福祉協議会などの支援関係者との連携のもと、地域へのサポートに努めてまいりたいと考えております。</p>

委員の意見

<p>【緊急連絡先を伝える手法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磁石付きのプレートに緊急連絡先としてこどもの連絡先を書いて、そのまま見られたら困るので、上にもう1枚シールを貼って冷蔵庫に貼っている。 ・持病や身内の連絡先、飲んでる薬などを記入している「救急カプセル」を冷蔵庫に入れ、消防署の方などがわかるように、冷蔵庫に「救急カプセルが中に入っています」という紙を貼っている。 ・緊急連絡先をドアの内側に貼っているが、ドアを開けた際に個人情報が見えてしまうので心配という声もある。
<p>【地域での活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月12日に区社会福祉協議会でボラセンまつりを予定している。 ・高齢者の健康づくりとして、瓜破霊園を活用し、スタンプラリー・ウォーキングを行ったが、歩くのが大変な方にも「参加できて、歩いてよかった」と喜んでくれたので、今後も継続したい。 ・喜連西地域では、毎週百歳体操をしている。コロナ禍でストップしているが、こどもたちに対して昔遊びも再開できればと思っている。 ・瓜破北地域では、食事の仕方や電子レンジの使い方などの勉強会をひらき、家に閉じこもらないように、小さなことでも集まってすることが大事と考えて行っている。 ・長原東地域では、地域の方に目配り・気配りしてもらい、見守ってほしいという声があれば、ケアマネージャーや地域包括支援センターに連絡し、すぐに対応できる連携ができていると思う。

【こども教育】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和5年2月
分野 区政会議（2月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
15	<p>【英語スピーチコンテストなどの取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語スピーチコンテストや英語学力調査などの取組をもっと知ってもらう為に、多くの人に情報が届くようにしてほしい。 ・これからの時代は、国際化や多様性が大事と思うので、その入口として英語をこどもたちに親しんでもらうことが大切だと思う。 ・小学生でも英語教育が始まっており、英語に興味を持ち、英語スピーチのコンテストに参加したい、もっと学びたいと思ったときに、家庭環境に関わらず、放課後ボランティアの方に英語を教えてもらえるようにするなど、何か計画はあるのか。 	<p>英語スピーチコンテストについて、区の広報紙やHPに掲載するとともに、区内小中学校へポスター・チラシ配布を行い、学校内における周知も依頼しておりますが、広報紙やHPに掲載するだけでは記事を見ていただけないこともあるかと思っておりますので、多くの方に情報が届くよう、今後も周知に努めてまいります。</p> <p>また、区が実施する学力サポート事業では、大学生などの指導員が学習支援を行っておりますが、英語に関しては、スピーキングまで行うのは難しく、ドリルの問題を解くなどの指導になっている状況です。</p> <p>そのため、英語スピーチコンテストは、常磐会学園大学の教授に監修いただき、質の高いスピーキングをめざすと共に、区内の小中学生であればどなたでも応募していただけるので、今後も英語に興味を持ち、もっと学びたいと思う環境も提供してまいりたいと思います。</p>

【こども教育】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和5年2月
分野 区政会議（2月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
16	<p>【支援が必要と思われる児童の把握について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での様子をチェックシートで把握する取組により、支援が必要だと明確にわかる児童は発見しやすくなったが、その裾野にいる支援が必要だがそういった部分が見えにくい児童を事前に把握することも大切だと思う。特に若い先生では難しいと思うので、区役所と学校が協力して発見する方法を考えてほしい。 ・学校ではタブレット端末にてその日の調子を答えてもらう取組を行っているが、低学年では比較的効果があるものの、高学年くらいになると、声をかけられるのが嫌で、何でもOK、OKと答えてしまうと聞いている。 ・運営方針のアウトカム指標において『こどもサポートネット支援対象者件数を継続的に300件以上』となっているが、支援の必要な児童は少ない方がいいのではないか。 	<p>支援が必要と思われる児童の把握については、学校でのチェックシートの取組や、各学校・区役所・地域の民生委員・主任児童委員が参加する地域連携会議で、情報共有を行うとともに見守りなどをお願いしているため、こどもの実態は概ね把握できていると考えております。</p> <p>こどもサポートネット支援対象者件数が少ないほうが良いことではありますが、平野区には要保護児童が約650名おり、その他にも支援が必要ではないかと考えられるこどもたちが数多くいる状況です。こどもたちの支援についても、1度限りのものではないため、継続的に300件以上のこどもを見守りの対象とすることを運営方針に記載しております。</p> <p>一方で、こどもサポートネット推進員の定員が達していないこともあり、支援が必要と判断しにくいこどもの発見や速やかな支援を十分に行うことができていない状況です。</p>
17	<p>【こどもサポートネット推進員について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こサポ推進員について、6人の定員が集まらないとの事だが、どのような位置づけの職員なのか。例えば一部の役割だけでもできる人という事で募集するのはできないのか。 	<p>こどもサポートネット推進員については、会計年度職員であり、福祉施策の知識（支援内容・申請手続き等）・区の福祉資源についての知識のある方という一定の資格を持つ方が、募集要件となっています。こどもたちのサポートをしていただく方になりますので、平野区の実情をご存じの方に多く応募いただければ幸いです。</p>
18	<p>【校長経営戦略支援予算について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような使途に使われているのか。また、各校長の権限で執行されているのか。 ・塾代助成事業も活用したうえで、学習サポートを平野区として拡げていこうと考えているのか。 	<p>校長経営戦略予算は、学校長が直接執行できる予算と、区長の権限で執行するもの「課外学習支援事業」「学習意欲向上事業」「生きる力育成支援事業」があります。</p> <p>課外学習支援事業は、塾代助成事業を活用した放課後に実施している民間事業者委託による学習会となっており、事業者選定にかかる経費を執行しています。</p> <p>また、学習意欲向上事業では読書ノートの作成経費等を執行しています。</p> <p>生きる力育成支援事業は、不登校の児童生徒の居場所づくりとして、区民センターや区民ホールで活動しており、支援者（有償ボランティア）の報償費等を執行しております。</p> <p>今後の実施についても、区民ニーズも含めて検討してまいります。</p>

委員の意見
<p>【学校やこどもたちへの支援などについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生をサポートする人材が、もうちょっといたら良いと思う。 ・地域の子育て支援においても、同じ利用者ばかりではなく、もっと色々な人に利用してもらえよう周知していく必要があると感じる。 ・英語に限らず、こどもたちが学校生活の中で好きなことを見つけ、それを集中して学べるような環境をつくるのが、私たち大人の責任だと思う。まずは、やっぱり先生たちが明るく意欲的になっていただきたいと思う。 ・コロナ禍からの回復後、学校生活での指導方法をどのように変えていくのか、より良い方法が他にないのかなど考えてほしい。
<p>【児童が校区外の公園（久宝寺緑地）へ出かけることについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾市との境の近くに住んでいる児童にとっては、久宝寺緑地は最も近隣の公園の一つとなるが、校区外という理由で児童だけで遊びに行かないよう学校から言われている。 ・市内を外れてしまうと、何かあった時に連絡が来ないことが心配で、校区外にこどもだけで遊びに行ってもいけない等の決まりが学校で決められていると思う。
<p>【地域での活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜連西地域では、6月からブックスタートを実施する。また、憩いの家で子育てサロンも同時にしようと思っている。